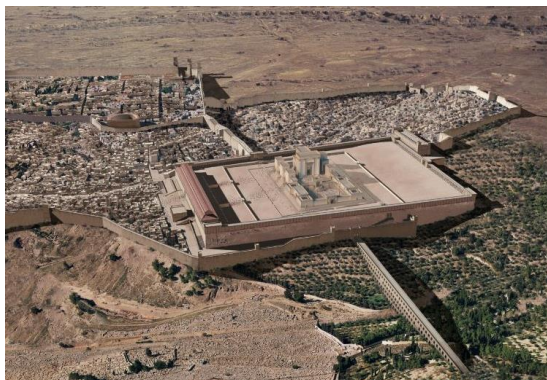


エルサレム

知っておきたいキリスト教のことば (28)

エルサレムはパレスチナ地方の都市の名前です。その場所では現在、ユダヤ教、イスラム教、そしてキリスト教という三つの宗教の聖地となっています。そしてそこには、ユダヤ教の嘆きの壁、イスラム教の黄金のドーム、キリスト教の聖墳墓教会などがあります。



さて、聖書の中でエルサレムが都となるのはダビデ王の時です。ダビデ王はエブス人を攻め落とし、王国を作り上げ、エルサレムを新しい都とします。さらにダビデの子であるソロモン王は、エルサレムに神殿と宮殿を建設します。その結果、エルサレムは宗教と政治の中心地となります。そして旧約聖書の中では、エルサレムは神に選ばれた町として、そして聖なる都、救いの場所として描かれていくのです。ちなみにシオンというのは、エルサレム地方の歴史的地名です。

新約聖書でも、エルサレムは神さまの救いの計画がおこなわれる場所として登場します。特にルカ福音書と使徒言行録、いわゆる「ルカ文書」の中では、その重要性が強調されています。イエス様は誕生のあと、エルサレム神殿で献げられます。さらにルカ文書においては、イエス様の十字架だけでなく、復活、顕現、昇天、聖霊の降臨に至るまで、すべてのことがエルサレムを舞台におこなわれていきます。つまり福音が世界に伝えられていくのは、エルサレムからだということを示しているのです。

イエス様の復活後、地上のエルサレムはその信仰的・神学的重要性を失ってしまいました。その背景には紀元 70 年のエルサレム神殿崩壊もあるでしょう。しかしわたしたちは、天のエルサレム、新しいエルサレムに希望を抱きつつ、神の国が来ますようにと祈り求めるのです。

次回は「黄金律」です。お楽しみに。